

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-155885

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)6月14

B 62 K 11/10

7535-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 スクーターのフレーム

⑯ 特 願 昭63-306826

⑰ 出 願 昭63(1988)12月6日

⑱ 発 明 者 徳 永 敏 秋 静岡県浜名郡可美村若林222

⑲ 出 願 人 鈴木自動車工業株式会社 静岡県浜名郡可美村高塚300番地
社

⑳ 代 理 人 弁理士 藤本 博光 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

スクーターのフレーム

2. 特許請求の範囲

前部を上方に高くしてヘッドパイプを溶着したメインパイプの後端に、後部を両側に延げた左右の補強パイプを溶着し、鋼板モノコック型にした後フレームの前下部をメインパイプの後部と左右の補強パイプの上に乗せて溶着するようにしたこととを特徴とするスクーターのフレーム。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

て作られている。そして、フレーム後部は、鋼板製のフレームカバーで覆って体を防ぎ、フレームカバー内に燃料タンクやオイルタンクの部品を収容したり、物入れを設けている。但、特開昭62-286883号公報参照。フレームカバー内の容積には限界があり、又、フレームカバー内にフレーム後部のパイプが通っているので、デッドスペースが多く、大きい物入れを添けようとする、フレームカバーが大きくなり、車体寸法も大きくなって、重量も増加する都合がある。

(発明の目的)

この発明は、前部の鋼板製のメインパイプ端に後部を両側に延げた左右の補強パイプをして左右の補強パイプの間にエンジンの前部

特開平 2-155885

ができるスクーターのフレームを得ることを目的とする。

〔発明の構成〕

以下、本発明を簡単に示す実施例によって説明する。

メインパイプ1は、鋼管製で、前部を上方に曲げて高くし、前部にヘッドパイプ2を溶着する。ヘッドパイプ2は、前ホークを取付けるものである。メインパイプ1の後端は、上下方向に長く長円形に延び、短かい鋼管の左右の補強パイプ3を溶着する。又、メインパイプ1の後部下側には、エンジンを備えたパワーユニット4の前下部をリンク片5を介して軸着するブラケット6を溶着する。そして、メインパイプ1の低い部分には、フートボード7を軸着するフートボード受け8を溶着する。後フレーム9は、鋼板モノコック型で、前下部をメインパイプ1の後部と左右の補強パイプ3の上に架せるように溶着して溶着する。左右に延びた補強パイプ3の間には、パワーユニット4のエンジンの前傾させたシリンダー10が位置す

るようにしてある。後フレーム9は、前部がい物入れ11にしてあって、物入れの上側にト12を装着する。又、物入れ11の後部に燃料タンク13などを収容するようにしてあり、後フレーム9の後部は、テールカバー14で、後端には、一連に見えるようにテールランプを取付ける。

〔発明の作用〕

後フレーム9は、メインパイプ1とその後部に溶着した補強パイプ3に溶着して溶着する。溶着長さを長くできて、剛性高くできる。又、補強パイプ3は、後部を左右に延びてあり、間に、パワーユニット4のエンジンの前傾させたシリンダー10を位置させるので、パワーユニット4を前側に立てて、ホイールベースを短かく型枠強にできる。後フレーム9は、鋼板モノコック型で、内側の容積を十分に利用できて、大物入れ11を設けながら、燃料タンク13などの部品を収容できて、小さいながらも利用容積大きくできる。

- 3 -

〔発明の効用〕

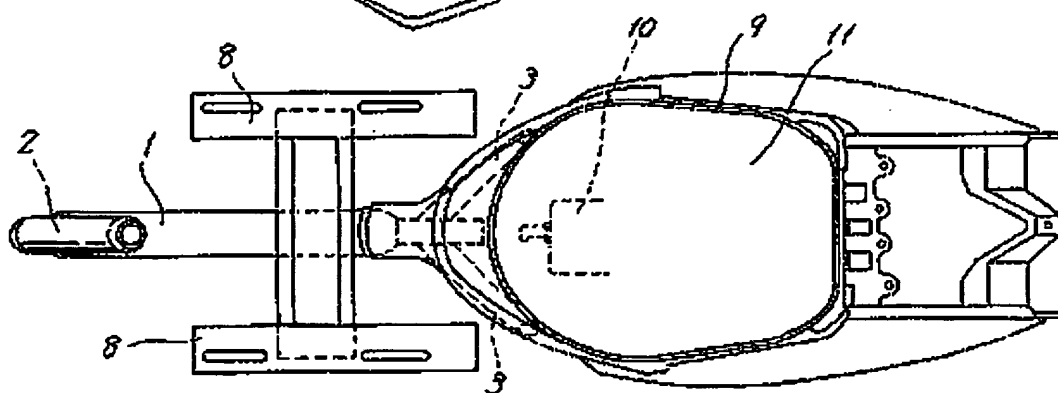
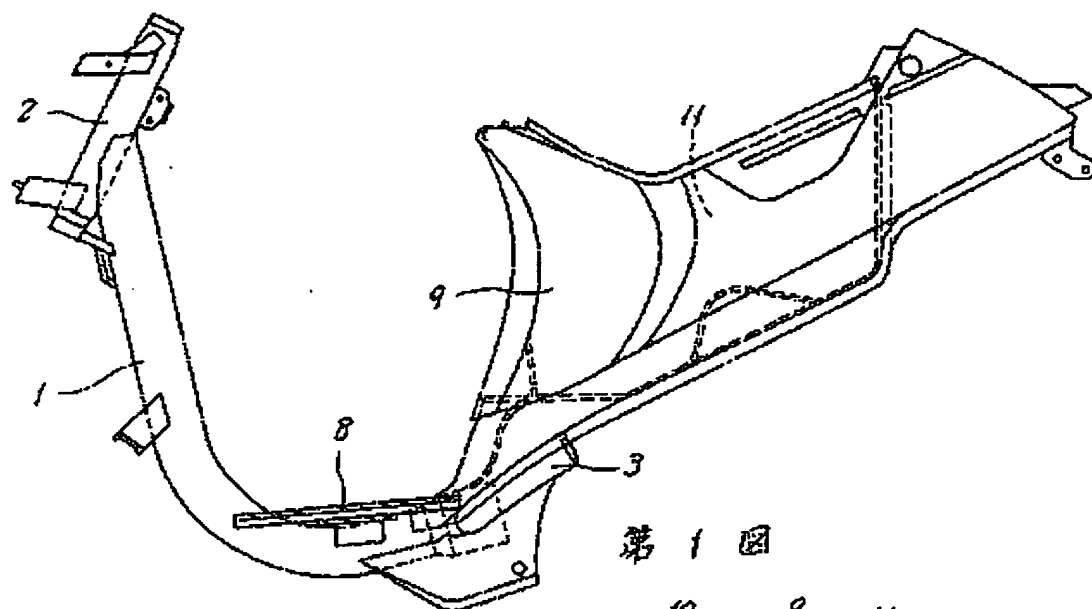
以上説明したように、この発明は、前部を上方に高くしてヘッドパイプを溶着したメインパイプの後端に、後部を両側に延びた左右の補強パイプを溶着し、鋼板モノコック型にした後フレームの前下部をメインパイプの後部と左右の補強パイプの上に架せて溶着するようにしたので、前傾したシリンダーを左右の補強パイプの間に位置させてパワーユニットを前側に設置でき、ホイールベースを短かくできて、小型軽便にできる。そして、モノコック型の後フレーム内の容積は、有効に部品装着に利用することができ、小さいながらも内部を有効に利用して、大きい物入れも設けることができ、便利にできる。

- 4 -

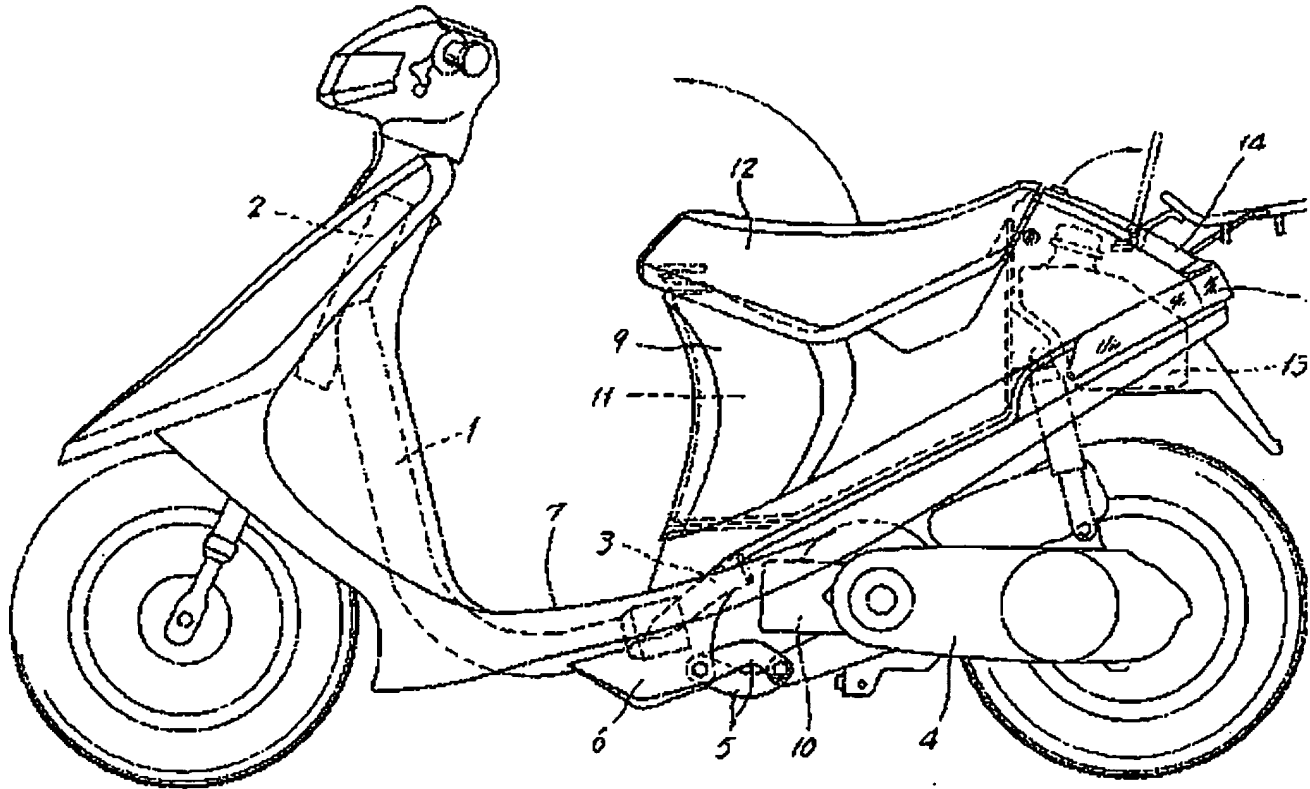
1…メインパイプ、2…ヘッドパイプ、
3…補強パイプ、9…後フレーム。

出願人代理人 阪 本 博 光

特開平 2-155885(C)



特開平 2-155885C



第 3 圖